

# 令和6年度第1回港北高校学校運営協議会 議事録

## 1 資料

- (1) 令和6年度港北高等学校学校運営協議会委員名簿
- (2) 令和6年度学校運営協議会運営計画書
- (3) 令和6年度不祥事ゼロプログラム
- (4) 神奈川県立学校に設置する学校運営協議会の運営等に関する要綱
- (5) 令和6年度 学校要覧

## 2 校長挨拶

4月に着任しました。よろしくお願いいたします。

学校要覧の3, 4ページをご覧ください。本校のスクール・ポリシーとグランドデザインです。内容に変更はないが、グランドデザインは見せ方に工夫を加えた。着任し、本校は地域との連携が強いと感じた。存分に生かしていきたいと考えている。

学校要覧の5ページをご覧ください。学校教育計画です。キーワードを変更した。「地域に開かれた学校づくり」から「地域から信頼される学校づくり」へと変更した。また、教室環境・ICT 環境整備にも力を入れる。職員のワークライフバランスの充実にも引き続き取り組みたい。

## 3 委員委嘱

机上の委嘱状の通り、1年間委嘱させていただきます。よろしくお願いいたします。

## 4 議事

### 1 学校運営協議会について

資料2ページの通り、4月、県に提出済みである。本校の設置部会は2つであるが、特に分けて実施はしておらず、まとめて行っている。有識者による評価欄には昨年度、委員の方々の意見を記載している。年間計画も例年通りである。

資料8～12ページに本会設置の根拠資料がある。県から送られてきているものである。

### 2 令和5年度の実績について

### 3 令和6年度の実績について

別途資料 学校要覧の6～9ページの通り。2項目まとめて行う。

詳細を各担当から説明する。

## 各担当から説明

### 【学習支援グループ】

学校評価報告書 1「教育課程 学習指導」

①について新学習指導要領の定着を図る。現在の3年生より実施している。新課程での科目選択について引き続き検討が必要。年度によって生徒の傾向が異なるため、よりよい科目の組み合わせの見極めが必要。

### 【生徒支援グループ】

学校評価報告書 2「生徒指導・支援」

生活指導に関しては、本校は落ち着いた校風で、規範意識の高い生徒が多数である。その反面、入学後に生活が乱れる生徒が一定数いる。家庭環境の不和により登校が難しくなるケースもある。そのような生徒には手厚く支援していきたい。

スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーが原則金曜日に配置されており、生徒も相談にきている。

昨年度2回全県実施した、かながわ子どもサポートドッグでは、オンライン調査で生徒の生活状況をリサーチし、その後必要な生徒に対しては面談へつなげた。今年度1回目はすでに実施済みで、担任からの情報集約を待っているところ。今後、必要に応じて面談へとつなげていく。

### 【進路支援グループ】

学校評価報告書 3「進路指導・支援」

新課程入試を控えているため、53期生は浪人が少なかった印象。90%超えの大学進学率で直近では最高。専門学校への進学率も回復傾向にある。おおよその生徒は一般入試で3分の2ほど。近年増加傾向にある推薦入試を利用する生徒も、本校では100名を超えてきている。最新の傾向を反映した新しい情報の共有が必要となる。難しい大学を進めるだけでなく、多様な希望を叶えられるよう指導にあたっていく。

### 【活動支援グループ】

学校評価報告書 2「生徒指導・支援」

学校行事について、コロナ禍を終えて昨年度行事は混乱した。コロナ前に戻そうと本年度も検討を続けている。新しくするところは新しくしていきたい。

部活動について、加入率が高く、実績を挙げている部も多い。

### 【開発・広報グループ】

学校評価報告書 1「教育課程 学習指導」4「地域等との協働」5「学校管理・学校運営」

授業力向上研修を年4回実施しており、うち1回は外部講師を招いている。本年度は、課題設定にテーマを絞っている。総合的な探究の時間では、1、2年生が新プログラムのもと実施。2年生は、次年度まとめ・発表となる。

地域との協働について、昨年度太尾小学校と連携した地域清掃を実施。本年度も実施予定。

ホームページの充実にも引き続き力を入れて取り組んでいきたい。  
本協議会のサポートも行っている。

### 【管理運営グループ】

学校評価報告書 5 「学校管理・学校運営

PTA や保護者との連携を行っている。

引き続き、教室の環境整備や備品管理、一人一台端末や ICT 環境の整備・充実に向けて取り組んでいき、教育現場の ICT 化を進めていく。会議でのペーパーレス化も継続していく。本年度は、授業内での生徒の ICT 環境整備の充実化にも力を入れていきたい。

職員のワークライフバランスの充実に向けて取り組んでいく。年休の取得率を向上させる。生徒が安心して過ごせるよう、不祥事防止に向け取り組んでいく。資料 3～7 ページ参照。

## 5 質疑

① 7 時間目の導入・実施の際、部活動との軋轢などがあったと思うが、どう調整されたか。

→ 7 時間目は 2 年前から導入・実施している。当初職員は不安だったが、生徒は一生懸命に取り組んでおり、順調に定着しているといえる。部活動は、7 時間の日をオフに設定している部が多く、特に軋轢は生じていない。新課程では、3 学年は 4 時間が基本で週に 1 日だけ 6 時間の日がある。本校は通塾率が高く、生徒も午後は自由に使用できているのではないかと思う。

② ICT 化のさらなる整備とは、具体的にどのようなことをするのか。

→ 一人一台端末を使用した授業はまだ少ない。教員は使用しているが、生徒は使用できていない。スマートフォンで解決してしまったり、充電場所等の課題も意見として挙がっている。

③ オンライン授業について、ハイブリット等で実施していくのか。

→ 黒板を投影できる範囲に限界があり、職員の技量の差も出てしまうため、難しい。不登校生徒への対応として、文科省から通知を受け、県からも指示が来ている。各学校で対応を検討しているところ。具体的には、オンライン授業でも出席が認められ、単位認定は可能になる。

④ 通学路の決まりはあるか。

→ 住宅街など通らないところは指定し、共有している。

⑤ 部活動の横断幕を寄付している。枚数が増えて貼りきれない、うれしい悲鳴である。

⑥ 総合的な探究の成果はどのようなものか。

→ 新プログラムの途中のため、まだ最終成果物は出ていない。来年度出る予定。

以上。